

山口県議会 A S E A N 地域友好・調査訪問団報告書

(令和4年11月11日～11月17日)

議長代理 二 木 健 治
団 長 吉 田 充 宏
団 員 畑 原 勇 太、坂 本 心 次
森 繁 哲 也、有 近 眞知子
曾 田 聡、酒 本 哲 也

【 目 次 】

○ASEAN地域友好・調査訪問を通して	1
Ⅰ シンガポールでの活動	3
・11月11日(金)〔日本からシンガポールへ移動〕	3
・11月12日(土)〔シンガポール〕	4
Ⅱ ベトナムでの活動	8
・11月13日(日)〔ハノイ、ビンズン省〕	9
・11月14日(月)〔ビンズン省〕	11
・11月15日(火)〔ビンズン省、ホーチミン〕	15
・11月16日(水)〔ハノイ〕	17
・11月17日(木)〔ベトナムから日本へ移動〕	18
Ⅲ フィリピンでの活動	19
・11月15日(火)〔カマリネス・スル州〕	20
・11月16日(水)〔カマリネス・スル州、マニラ〕	23
・11月17日(木)〔フィリピンから日本へ移動〕	24
○ASEAN地域友好・調査訪問を終えて	25
○訪問日程、訪問団名簿	27

ASEAN地域友好・調査訪問を通して

議長代理 二木 健 治

報告書の作成に当たって本県議会訪問団を代表して一言ごあいさつ申し上げます。

コロナ禍の大変厳しい状況の中で、高い経済成長を遂げているASEAN地域との交流や連携した海外展開の取組は、本県のコロナ以降の反転攻勢に向け、大変重要なものであります。

令和2年から約2年半の間、ASEAN地域との交流や海外



シンガポール山口県人会との意見交換（11/13）

展開はコロナ禍により取組が停滞していましたが、今年度に入り、日本も含め世界各国で入国に係る規制緩和が進み、海外との往来がしやすい環境になりつつあることから、この機会を逃すことなく、今後のASEAN地域における交流活動の更なる拡大を図るため、今回訪問させていただくこととしました。

訪問先の選定に当たっては、事前調査により、シンガポール、ベトナム、フィリピンの3カ国を訪問することといたしましたが、私はベトナム政府への表敬訪問等のため、訪問団のフィリピンへの移動後も引き続きベトナムにて活動を行いました。

7日間という短い期間でしたが、それぞれ訪問先において、関係者から温かい歓迎や丁寧な説明を受けるとともに、意見交換や現地視察を行うなど、密度の濃い訪問となり、貴重な経験をさせていただきました。

訪問内容につきましては報告書のとおりでございますが、シンガポールでは、山口県ビジネスサポートデスクやクレアシンガポール事務所等の視察を行い、シンガポールの概況説明等を受けるとともに、シンガポ

ール山口県人会と交流を図りました。

今回の訪問により、コロナ禍以降の反転攻勢に向け、更に強化された山口県人会との繋がりを活かしながら、シンガポールをはじめとするASEAN地域におけるインバウンドの拡大や県産品の売り込みの拡大など、様々な分野における交流活動の再始動に繋げていくことが出来たと考えています。



ベトナム ビンズン省表敬訪問 (11/14)

ベトナムでは、山口県とビンズン省とのさらなる交流促進のため、ベトナム政府やビンズン省地方政府機関等と意見交換を行うとともに、現地の大学を訪問し、学生と交流しました。また、県議会独自にハノイ県人会とも交流を図りました。

さらに、ベトナム政府を表敬訪問し、本県産の農産物の輸出拡大に向けた意見交換等を行いました。

今回の訪問により、ビンズン省地方政府との意見交換では、今後、日本語教育や介護分野、農業分野などの人材交流を深めるとともに、文化交流、大学間の交流など、具体的な検討を進めていくことや、本県とベトナムとのチャーター便や定期便の運航の実現に向け、協力していくことを確認することができました。また、ベトナム政府との意見交換においては、県産和牛やふぐなど、山口県産の農産物の輸出拡大に向け、協力していくことなどを確認することができました。

コロナ禍や緊迫する国際情勢の中、本県を取り巻く環境は目まぐるしく変化しており、熾烈な国際競争に打ち勝つためにも、グローバルな視点で県政振興を図る上では、こうした海外訪問団の編成は是非とも必要であり、今後とも続けていくことをお願いするとともに、今回の訪問にあたりまして関係者各位の格別なご理解とご協力に対し、厚くお礼を申し上げます。

令和4年12月

I シンガポールでの活動

シンガポール共和国の概況

(外務省 HP 等より)

○一般事情

- 1 面積 約 720 km² (東京 23 区と同程度)
- 2 人口 約 569 万人 (2020 年)
- 3 民族 中華系 76%、マレー系 15%、
インド系 7.5% (2019 年 6 月)
- 4 言語 国語はマレー語。公用語として英語、中国語、マレー語、
タミール語
- 5 宗教 仏教、イスラム教、キリスト教、道教、ヒンズー教
- 6 通貨 シンガポール・ドル



○経 済

- 1 主要産業
製造業、商業、ビジネスサービス、運輸・通信業、金融サービス業
- 2 GDP (2020 年、シンガポール統計局)
469,096 百万シンガポール・ドル (1 人あたり 82,503 百万シンガポール・ドル)
- 3 経済数値 (2020 年)
 - (1) 経済成長率 -5.4%
 - (2) 物価上昇率 -0.2%
 - (3) 失業率 2.8%
- 4 貿易額 (2020 年、シンガポール統計局)
 - (1) 輸出 515,645 百万シンガポール・ドル
 - (2) 輸入 453,467 百万シンガポール・ドル

11月11日(金) [日本からシンガポールへ移動]

シンガポールの航空機の運航状況や訪問日程等を考慮し、前日にシンガポールに入国した。

11月12日（土）〔シンガポール〕

■山口県海外ビジネスサポートデスクの現地視察

本県では、県内中小企業のASEAN地域等に向けた海外販路開拓の支援を目的に、本年7月に「山口県海外ビジネスサポートデスク」をシンガポール中心部に設置しており、海外ビジネス展開に関する豊富な知見や、幅広いネットワーク等を有する専門家による情報収集・市場調査、取引先企業の発掘・紹介等の支援が行われている。



山口県海外ビジネスサポートデスク内にて

今回の視察では、関泰二山口県海外ビジネスサポートデスク所長から、県産製品の同国内での評価や、今後のプロモーションの方向性等についてブリーフィングがなされ、県内中小企業の海外展開支援が着実に進んでいることを確認した。

山口県海外ビジネスサポートデスク

ASEAN 地域を中心に販路開拓等を行う県内企業のビジネス展開を支援する「山口県海外ビジネスサポートデスク」が本年7月にシンガポールに設置された。海外展開への相談対応、コンサルティング、アドバイス、市場調査、商談マッチング、アフターフォロー等の業務が行われている。

■在シンガポール日本国大使館・高橋公使との意見交換

クレア（一般財団法人自治体国際化協会）シンガポール事務所に在シンガポール日本国大使館・高橋公使をお招きし、意見交換を行った。

村岡知事、二木副議長のあいさつの後、公使から、アフターコロナを見据えたシンガポール政府の動き、農水産物を始めとする日本産品の同国内でのプロモーション等に関する概況説明があった。

特に、シンガポールは人への投資を積極的に行ってきた背景から、食材の嗜好が国民によって様々であり、山口県産の食材を売り込む際には、一人ひとりに働きかけるように、情報発信やプロモーションを行なった方が良いとの助言をいただいた。



高橋公使との意見交換
(クレアシンガポール事務所)

また、日本から進出しているドンキホーテにおいて多数の日本の鍋のスープが販売され、毎年2月に開催される天皇陛下誕生日レセプションでは日本の各県が出店しPRされているなど、いろいろな売り込みのチャンスがあることが紹介された。

さらに、直近のトピックスとして、大使館ほか関係機関の働きかけが功を奏し、日本国内で流通している養殖フグの白子、皮、ヒレといった部位のシンガポール向け輸出が今夏から解禁された点などが報告された。

訪問団からの効果的なインバウンドの取組についての質問に対し、公使からバスやローカル線で足を確保した上で山口県内の酒蔵を巡るツアーを開催することは大変有効ではないかとの助言をいただいた。

■ クレアシンガポール事務所、日本政府観光局 (JNTO) によるブリーフィング

クレアシンガポール事務所の櫻井所長から冒頭のあいさつの中で、コロナ禍で訪問者が少ない中、春に事務所を移転した後の初めての訪問が山口県であり、大変強い意気込みを感じたとの発言の後、シン



櫻井所長によるブリーフィング

ガポールの全般概況についてのブリーフィングが行われ、シンガポールの面積や人口、宗教、政治、財政、経済等について、説明を受けた。

ブリーフィング後には、シンガポールの一人当たり GDP の急拡大（日本の約 1.8 倍）をもたらした政府の経済政策のポイントを中心に意見交

換を行った。

続いて、日本政府観光局（JNTO）の仲野次長からシンガポール市場動向について、ブリーフィングを受けた。



仲野次長によるブリーフィング

説明の中で、シンガポールの

人口500万人のうち、75%が訪日の経験があり、国民の半数以上が訪日リピーターであることから、今まで誰も行ったことのない場所に行きたいという嗜好が強いことやシンガポールのスクールホリデーは11月中旬から12月末迄であり、この期間に訪日観光客を増やす取り組みが大事であるとの貴重なアドバイスを頂いた。

ブリーフィング後の質疑応答では、シンガポール国民の高い訪日意欲をどのようにして地方部への訪問促進につなげるかといった観点から、闊達な意見交換を行った。

クレア（CLAIR、一般財団法人自治体国際化協会）

地方自治体が取り組む地域の国際化を支援する地方自治体の共同組織で、1988年7月に設立され、本部を東京に、海外事務所をシンガポール、ニューヨーク、ロンドン、パリ、ソウル、シドニー、北京に設置している。

クレア（CLAIR）シンガポール事務所

1990年10月に設置され、ASEAN10か国及びインド・スリランカを所管国として、日本の地方自治体の活動支援や国際交流・国際協力、各種政策の調査・情報発信など、様々な活動を行っている。

日本政府観光局（JNTO）

1964年、我が国の政府観光局として、50年間にわたって訪日外国人旅行者の誘致に取り組んできた日本の公的な専門機関であり、世界の主要都市に海外事務所を持ち、日本へのインバウンド・ツーリズムのプロモーションやマーケティングを行っている。

■都市再開発、観光開発の状況視察

シンガポール都市開発庁が所管するシンガポールシティギャラリー等の視察を行い、シンガポールのこれまでの都市再開発がどのように行われてきたか確認するとともに、マリーナ湾の近辺を視察し、観光開発の状況を確認した。



シンガポールシティギャラリー視察

■シンガポール山口県人会との意見交換会の開催

日本人会館において、シンガポール山口県人会との意見交換会が開催された。

コロナ禍以降、世界各国に21か所設立されている在外県人会との対面での交流が中断されてきたところ、今回の訪星により、2019年以降3年振りに在外県人会との対面交流が再開されたこととなる。

村岡知事、内藤県人会会長、二木副議長のあいさつの後、懇談し、参加者はコロナ禍以降の久々の対面での再会を喜ぶとともに、アフターコロナを見据えた対面での活動再開に大きな手応えを感じた様子であった。

交流会の最後には、本県のASEAN地域の国際交流・経済交流の推進に向けて、県と県人会が相互協力していく旨の共同声明が宣言された。



二木副議長あいさつ



知事と内藤会長による共同声明宣言

Ⅱ ベトナムでの活動

ベトナム社会主義共和国の概要

(外務省 HP 等より)



○一般事情

- 1 面積 32万9,241k m²
- 2 人口 約9,762万人 (2020年、越統計総局)
- 3 首都 ハノイ (人口825万人：2020年ベトナム統計年鑑2020)
- 4 民族 キン族 (越人) 約86%、他に53の少数民族
- 5 言語 ベトナム語
- 6 宗教 仏教(約80%)、カトリック、カオダイ教他
- 7 通貨 ドン (Dong)

○経 済

- 1 主要産業 農林水産業、鉱工業・建築業、サービス業
- 2 GDP (2020年、IMF) 約3,406億米ドル (1人あたり3,498米ドル)
- 3 経済数値 (2020年)
 - (1) 経済成長率 2.91%
 - (2) 物価上昇率 3.23%
 - (3) 失業率 2.26% (都市部：3.61%、農村部：1.59%)
- 4 貿易額 (2020年、越税関総局)
 - (1) 輸出 2,827億ドル (対前年比 7.0%増)
 - (2) 輸入 2,627億ドル (対前年比 3.7%増)

11月13日（日）〔ハノイ、ビンズン省〕

■ハノイ山口県人会との昼食会の開催

ハノイ市内のレストランにおいて、ハノイ山口県人会との昼食会が開催された。常藤県人会会長の呼びかけにより、10名の会員にお集まりいただき、議員訪問団と交流を行った。

常藤会長、二木副議長のあいさつの後、懇談の中でコロナ禍における現地での苦労話や県人会の交流活動の状況、ふるさと山口県への思いなどが熱く語り合われ、参加者はコロナ禍以降の久々の対面での再会の喜びを噛みしめた様子であった。

昼食会の最後には、吉田団長から県人会の皆様との交流は非常に重要であるとの思いが伝えられ、近いうちの再会を約束された。



二木副議長、吉田団長あいさつ、ハノイ山口県人会との記念撮影

■ビンズン省人民議会との懇談会の開催

ハノイからホーチミンへ移動後、ビンズン省ベカメックスホテル内において、人民議会との懇談会が開催された。

夜遅くの開催にも関わらず、グエン・バン・ロイ書記長やグエン・チュオン・ニャット・フーン人民議会副議長をはじめ、ビンズン省幹部の皆さんから温かい歓迎を受けた。

懇談会では、本県の和牛やフグといった農林水産物のベトナムへの輸出など、今後の新たな海外展開に向けた意見交換を行うとともに、本県

とベトナムとのチャーター便や定期便の運航の実現に向け、協力していくことを確認した。



人民議会との懇談会

ビンズン省の概要

○一般事情

- ・人口 約 250 万人（2020 年）
- ・面積 2,694.4 km²（山口県の約 44%）
- ・省都 ビンズン新都市
（2014 年ヅァウモット市から移転）
- ・位置 ホーチミン市
（人口約 800 万人）の北に隣接
- ・省書記長 グエン・バン・ロイ
- ・人民委員会委員長 ボー・バン・ミン
- ・人民議会議長 グエン・ロック・ハ



○経 済

- ・GDP 成長率 6.91%（2020 年）※ベトナム国家平均（6.8%）の 1.5 倍
- ・産業構造 建設工業 66.9%、サービス業 22.0%、農林業 3.2%
- ・工業団地等 約 30 か所の工業団地があり、総面積は約 10,000ha 以上
- ・総投資額 外国投資：3,889 件 資本総額 350 億ドル
- ・その他 東急グループが公共交通システムやマンション等の都市開発事業を進めている。

11月14日（月）〔ビンズン省〕

■ベカメックス IDC 訪問

山口県行政訪問団とともに、ベカメックス IDC を訪問し、グエン・バン・フン会長に面会した。

フン会長、村岡知事のあいさつの後、フン会長からベカメックス IDC のこれまでの歩みや今後の展開等についての説明や会社紹介ビデオの上映がされた。説明後には、ベカメックス IDC 内の展示会を見学した。



フン会長との面会



フン会長から二木副議長、吉田団長へ記念品贈呈



展示会の見学

ベカメックス IDC コーポレーション

会社概要（1976年に設立された100%ビンズン省政府出資の有限会社）

資本金：10兆3,500億ドン

従業員：3,922人

代表：グエン・バン・フン（Nguyen Van Hung）取締役会長兼社長

業種：不動産業

主な事業：工業団地開発、住宅不動産開発

■ビンズン省新都市、工業団地 視察

ベトナムに進出している豊田通商（株）の子会社「Toyotsu Safety &Automotive Components (VietNam) Co.,LTD」を訪問し、会社概要や主要生産品目のエアバッグの生産状況、雇用確保の方法等について、奥村代表から説明を受けた。

説明の後、工場内を見学し、エアバッグの生産状況を視察した。



奥村代表からの説明



エアバッグ工場内視察

Toyotsu Safety &Automotive Components (VietNam) Co.,LTD

○会社概要

設立 2019年4月11日

資本金 7.28 百万 USD

所在地 ビンズン省ミーフック 3 工業団地

従業員数 1,863 人

[ビンズン工場 854 人、ホーチミン工場 1,009 人]

生産品目 自動車用エアバッグクッション

自動車用シートインサート

駐在員 代表 奥村将巳 他日本人駐在 5 人

■ ビンズン省表敬訪問

ボー・バン・ミン人民委員長、グエン・チューン・ニャット・フーン人民議会副議長をはじめとするビンズン省政府関係者を表敬訪問した。

冒頭、ミン人民委員長、村岡知事、フーン人民議会副議長、二木副議長があいさつを行った。二木副議長のあいさつでは、前日の人民議会との懇談会における歓迎に対する感謝の思いを伝えるとともに、今後、特に山口県とビンズン省の経済交流を促進していくことの重要性を述べ、出席者間で認識を共有した。

あいさつの後、来年の日越外交関係樹立50周年という節目を見据え、今後の交流促進に向けた具体的な取組について、闊達な意見交換が行われた。



二木副議長あいさつ



ミン人民委員長から吉田団長へ記念品贈呈



ビンズン省政府関係者との記念撮影

■日本企業との交流会、歓迎夕食会

ミン人民委員長、在ホーチミン日本総領事館渡邊総領事、村岡知事のあいさつの後、山口県とビンズン省の交流紹介ビデオが上映され、現在までの交流に至る経緯等を共有した。

その後、ホーチミン市山口県人会による現地の交流の状況や、(株)丸紅からベトナム進出の経緯等についての説明がなされた。

日本企業との交流会に引き続き、歓迎夕食会が盛大に開催され、参加者は久々の対面による懇談を行い、交流を深めることができた。



日本企業との交流会



歓迎夕食会

15日以降は、二木副議長は議長代理として、引き続きベトナムにて活動し、吉田団長以下7名の訪問団はフィリピンへ移動し、活動した。

11月15日（火）〔ビンズン省、ホーチミン〕

■ 東部国際大学訪問、学生との交流

山口大学と学術協定を結んでいる東部国際大学を訪問し、学生と意見交換を行った。学生からは、本県への留学や就職などについて質問があり、本県への高い関心が伺えた。



学生との意見交換

また、村岡知事から学生に対し、山口県の自然、産業、文化、観光、食事などについての講演を行った。



知事の講演



大学関係者・学生との記念撮影

東部国際大学概要

開校日：2011年10月1日

学 長：グエン・バン・フック (Nguyen Van Phuc)

敷地面積：26ヘクタール

学 部：ビジネス学部、工学部、看護学部の3学部

学生数：約3,000人（大学が約7割、短大（3年）が約3割）

その他：2015年、山口大学と学術交流協定を締結。以降、毎年山大学生の語学研修を受入

2017年から毎年、長門市の中学生の語学研修を受入

■ビンズン医療短期大学訪問

ビンズン医療短期大学では、副学長から、医療介護人材の日本での採用に向けた学内での日本語教育など、即戦力としての人材育成の取組等の説明を受けた。

受け入れ実績のない本県に対しての協力要請があり、受け入れ先進県の事例を研究し、今後、協議を進めていくこととなった。



二木副議長あいさつ



大学関係者・学生との記念撮影

■在ホーチミン日本国総領事公邸昼食会

在ホーチミン日本国総領事公邸を訪問し、渡邊信裕総領事と昼食を共にした。

総領事からは、ベトナム・ホーチミンについての概況説明をいただいた後、意見交換を行った。



渡邊総領事との記念撮影

11月16日（水）〔ハノイ〕

■在ベトナム日本国大使公邸 昼食会

在ベトナム日本国大使館を表敬訪問し、山田滝雄大使と昼食を共にした。

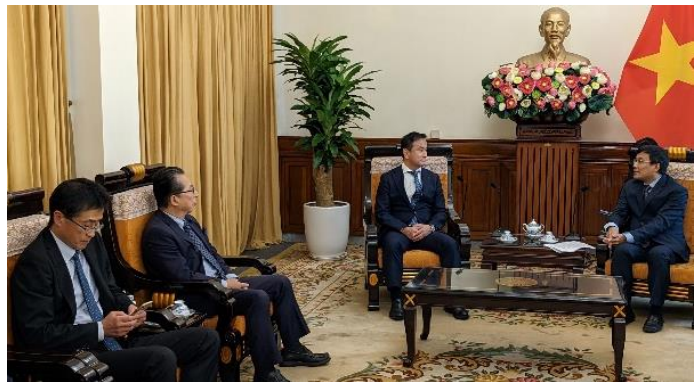
大使からは、ベトナムについての概況説明をいただいた後、意見交換を行った。



山田大使との記念撮影

■ベトナム政府 表敬訪問

ベトナム政府のグエン・ミン・ブ外務副大臣、レー・ミン・ホアン農業農村開発大臣と面会し、「やまぐち和牛燦」の輸出に向けたPRを行うとともに、本県のフグについての輸出の可能性等について意見交換を行った。



ブ外務副大臣との面会、記念撮影

また、ブ外務副大臣からはベトナムでの技術教育への需要についての説明があり、交流プログラムの支援など、人材交流への協力要請があった。



ブ外務副大臣との記念撮影

ホアン農業農村開発大臣からは、ベトナム国内でのフグの捕獲、食用加工は禁止されているが、安全な加工方法等が確立されれば、解禁可能との認識を示された。その場で担当局長に指示を出され、検討を約束された。

今後のフグの輸出に向けた大きな手応えを得るとともに、その他の農産物の交流への足掛かりとなるものであった。



ホアン農業農村開発大臣との記念撮影

11月17日（木）〔ベトナムから日本へ移動〕

ベトナムのタンソンニャット国際空港から羽田空港経由で山口宇部空港に帰国した。

Ⅲ フィリピンでの活動

フィリピン共和国の概要

(外務省 HP 等より)

○一般事情

- 1 面積 29万8,170平方キロメートル
(日本の約8割)
7,641の島々がある。
- 2 人口 1億903万5,343人(2020年フィリピン国勢調査)
- 3 首都 マニラ(首都圏人口約1,348万人)(2020年フィリピン国勢調査)
- 4 民族 マレー系が主体。他に中国系、スペイン系、少数民族がいる。
- 5 言語 国語はフィリピノ語、公用語はフィリピノ語及び英語。180以上の言語がある。
- 6 宗教 ASEAN唯一のキリスト教国。
国民の83%がカトリック、その他のキリスト教が10%。
イスラム教は5%
- 7 通貨 フィリピン・ペソ



○経 済

- 1 主要産業 サービス業、鉱工業、農林水産業
- 2 GDP (2021年、IMF) 3,936億米ドル(1人あたり3,572米ドル)
- 3 経済数値(2021年)
 - (1) 経済成長率 5.7%
 - (2) 物価上昇率 3.9%
 - (3) 失業率 7.8%
- 4 貿易額(2021年、フィリピン国家統計局)
 - (1) 輸出 746.5億米ドル
 - (2) 輸入 1,178.8億米ドル

カマリネス・スル州

面積 5,511.9 km² (2013 年)

※山口県 (6,112 km²) より少し小さい

人口 1,991,747 人 (2021 年)

※山口県 (約 130 万人) の約 1.5 倍

構成 35 の自治体と 2 つの都市がある。

主要都市 ナガ市 (Naga city)

人口約 11 万人で、スル州で最大の都市。

元は州都であったが、1955 年に州都は

ピリが指定され、現在に至る。

経済 多くの町では、農業が基幹産業であり、米、とうもろこし、飼料、畜産、ココナッツ、砂糖等を栽培している。



11月15日(火) [カマリネス・スル州]

■日本語学校見学、学校関係者との意見交換

ベトナムで二木副議長と別れた訪問団は、カマリネス・スル州立の日本語学校を訪問し、熱心に日本語を習得する生徒の姿を見学するとともに、校長先生をはじめとする教員や学生と意見交換を行った。

意見交換の中では、カマリネス・スル州の費用全額負担により誰でも無料で受講できる ICT 技術を活用した医療、介護技術習得の取組が紹介される一方で、日本語を習得したカマリネス・スル州の生徒



日本語学校の見学・意見交換

が訪日に至っていないという課題を共有し、制度や運用面での支障が生じていないか持ち帰り確認することとなった。



日本語学校の見学、意見交換

■カカオ農園視察

カマリネス・スル州内のカカオ農園を視察し、農園従事者の人材育成や生産ライン、カカオの育成方法や商品化等状況を確認するとともに、農園が抱える慢性的な水不足という課題等について、どのような支援が必要かなどの意見交換を行った。



カカオ農園の視察



カカオ農園関係者との記念撮影

■カマリネス・スル州知事、州選出下院議員との意見交換

冒頭、Luigi Villafuerte
カマリネス・スル州知事から、
州の概況や州として力を入れて
取り組んでいるココナッツ工場
の建設や観光業の取組等につい
て説明された。

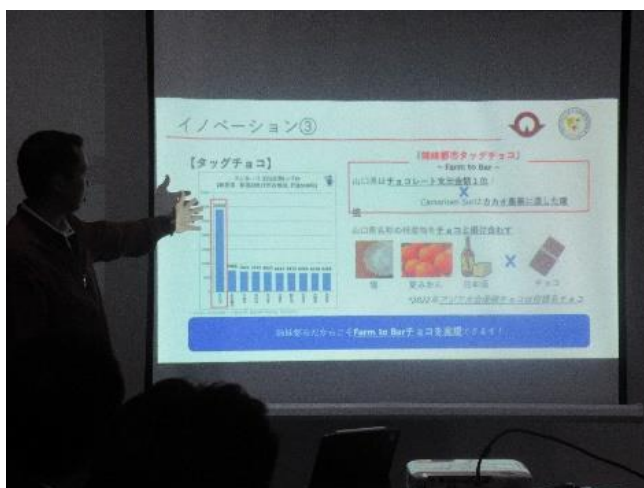
その後、Tsuyoshi Anthony
Horibata 下院議員からカマリネ
ス・スル州と山口県との交流に
向けての具体的な取組の提案に
ついて、説明がなされた。

目標は、山口県とカマリネス
・スル州が姉妹都市を結ぶこと
であり、連携した取組として、
若者を中心とした地域の情報提
供と勉強会を開催し、お互いの
情報交換を行い、経済発展の取
り組み、グローバル化した商品
開発や特産品作り等を行い、一
緒にアジア展開を進めていき
たいという意向が示された。

具体的には、州で水揚げされ
るカニやエビの山口県への輸出
や、州で収穫したココナッツと
山口県の日本酒のコラボレーシ
ョンによる新たな商品開発、州
で収穫したカカオを加工したチョコ
レートと山口県の塩、夏みかん、



州知事、下院議員との意見交換



下院議員からの提案



州で水揚げされたエビ

日本酒とのコラボレーションによる新たな商品開発についてのアイデアが披露された。

帰国後、法律や関税などを確認した上で、実現に向けた検討を行ってほしいとの要望を受けた。



要望を受ける訪問団

11月16日（水）〔カマリネス・スル州、マニラ〕

■ココナッツ工場 視察

カマリネス・スル州内で、現在建設中のココナッツ工場を訪問し、Tsuyoshi Anthony Horibata 下院議員から、現在の建設の進捗状況やココナッツの生産状況、今後の特産品としての展開の見通し等についての説明を受けた。



ココナッツ工場の視察

■在フィリピン日本大使表敬訪問

在フィリピン日本大使公邸において、越川和彦特命全権大使に面会し、大使からフィリピンの概況についての説明がされるとともに、フィリピンの急速なデジタル化の進展や技能実習生の就労状況等について、意見交換を行った。



越川大使との記念撮影

また、大使からは、JICA在任中にベトナム・キエンザン省で進められている本県の水産インフラ輸出構想に関わられたことに触れられ、

中小企業・SDG s ビジネス支援事業など、日本の技術を活用した取組を海外展開する際には、海外の各地の経済に波及させ、底上げにつなげることが大事であるとの助言をいただいた。

また、今後の山口県の海外展開の取組みの中で、この大使公邸を活用していただきたいとの発言もいただいた。

今後のフィリピンと山口県の交流促進に向け、引き続きご協力いただくよう大使にお願いした。

11月17日（木）〔ベトナム、フィリピンから日本へ移動〕

フィリピンのニノイ・アキノ空港から福岡空港に帰国し、博多駅から山口県へ移動した。

ASEAN地域友好・調査訪問を終えて

団 長 吉 田 充 宏

ASEAN地域への派遣を終えて、このような貴重な機会を与えていただいた関係の皆様に対し、訪問団一同、心からお礼を申し上げます。

この度は、シンガポール、ベトナムを訪問し、コロナ禍で途絶えていた交流の再起動や視察調査を行うとともに、新たな海外展開を図るべく、議員訪問団として初めてフィリピンを訪問して交流の礎を築くとともに、本県との継続的な交流に繋がられないか精力的に現地の調査をいたしました。

訪問団は11月11日から17日までの限られた期間ではありましたが、それぞれの訪問先で関係者の皆さんから詳しい説明を受けるとともに、意見交換や現地視察など、密度の濃い有意義な経験をさせていただきました。



ベトナム ベカメックスIDC訪問 (11/13)

まず、最初の訪問地シンガポールでは、下関市と同程度の面積に約570万人の多民族国家、街には、あらゆる民族の方が暮らす姿が頼もしく目に移りました。アジアのみならず、世界への情報発信の窓口とあらゆるビジネスのセンター機能が集まることがよく理解できました。在シンガポール日本国大使館・高橋公使との意見交換の中で、本県の食材等の売り込みに関するアドバイスをいただくなど、有意義な意見交換を行うとともに、地元県人会の皆様と久しぶりの交流ができ、今後のシンガポールへの海外展開に係る連携の強化を確認し、大変実りある訪問となりました。

次の訪問地ベトナムでは、山口県議会の訪問団では初めてハノイにて

地元県人会の皆様と交流するとともに、続くビンズン省では、グエン・バン・ロイ書記長との意見交換の中で、本県和牛やフグといった農林水産物のベトナムへの輸出について積極的に売り込みを行い、大きな手応えを感じました。

最後に、フィリピンでは、カマリネス・スル州を初めて訪問し、州知事や下院議員等と本県との経済交流等について意見交換をするとともに、州内の日本語学校や農業施設等を調査視察し、交流を深めました。



特に、日本語学校では、目をキラキラさせて日本語を学ぶ生徒から、将来は日本で介護の仕事に従事したいと抱負を聞かせていただきました。

そして、州知事や下院議員との意見交換の中で、若いお

フィリピン カマリネス・スル州立日本語学校訪問 (11/15) 二人から色んなことにチャレンジしてカマリネス・スル州を発展させたいという強いエネルギーを感じるとともに、カマリネス・スル州の山口県との交流促進に向けた熱い思いを汲み取ることができ、本県の新たな海外展開に向けた足掛かりを模索することができたと認識しています。

今回の訪問を通じて得られた、関係者の皆様との交流を通じた絆や各地の視察や意見交換等による調査結果という成果を今後の県政への反映や議会活動に生かしていくことについて、訪問団一同、強い思いを新たにしたところです。

結びに、訪問の際に説明や案内等のご対応をいただいた各国現地の皆様、訪問前の事前調査や準備にご協力いただいた執行部の皆様をはじめ、お世話になりました皆様に心から感謝申し上げます。

令和4年12月

訪 問 日 程

11月11日（金）〔日本→シンガポール〕
移動

11月12日（土）〔シンガポール〕
山口県海外ビジネスサポートデスク現地視察
在シンガポール日本国大使館公使面会
クレアシンガポール事務所訪問
都市再開発、観光開発の状況視察
シンガポール山口県人会との意見交換会

11月13日（日）〔ベトナム・ハノイ、ビンズン省〕
ハノイ山口県人会との昼食会
ビンズン省人民議会との懇談会

11月14日（月）〔ベトナム・ビンズン省〕
ベカメックスIDC訪問
ビンズン省新都市、工業団地視察
ビンズン省表敬訪問
日本企業との交流会、歓迎夕食会

※15日以降は、二木副議長は議長代理として、引き続きベトナムにて活動し、吉田団長以下7名の訪問団はフィリピンへ移動し、活動した。

二木副議長

11月15日（火）〔ベトナム・ビンズン省、ホーチミン〕
東部国際大学訪問、学生との交流会
ビンズン医療短期大学訪問
在ホーチミン日本国総領事公邸昼食会

11月16日（水）〔ベトナム・ハノイ〕
在ベトナム日本国大使公邸昼食会
ベトナム政府 表敬訪問

11月17日（木）〔ベトナム・ハノイ → 日本〕
移動日

吉田団長以下7名の訪問団

11月15日（火）〔フィリピン・カマリネス・スル州〕

日本語学校見学、学校関係者との意見交換

カカオ農園視察

カマリネス・スル州知事、州選出下院議員との意見交換

11月16日（水）〔フィリピン・カマリネス・スル州、マニラ〕

ココナッツ工場視察

在フィリピン日本大使表敬訪問

11月17日（木）〔フィリピン・マニラ → 日本〕

移動日

訪 問 団 名 簿

議長代理	二 木 健 治	自由民主党（宇部市）
団 長	吉 田 充 宏	自由民主党（山口市）
団 員	畑 原 勇 太	自由民主党（岩国市・和木町）
団 員	坂 本 心 次	自由民主党（周南市）
団 員	森 繁 哲 也	自由民主党（下松市）
団 員	有 近 眞知子	自由民主党（柳井市）
団 員	曾 田 聡	公明党（山口市）
団 員	酒 本 哲 也	民政会（下関市）
<hr/>		
随 行	原 田 和 生	山口県議会事務局 事務局次長
随 行	桂 敬 之	山口県議会事務局 議事調査課 主査
随 行	中 村 宏	山口県議会事務局 政務企画室 主査
随 行	工 方 満 之	山口県議会事務局 秘書室 秘書係長
添 乗 員	長 宗 正 樹	（株）JTB山口支店
添 乗 員	安 達 晃 子	（株）J&Jヒューマンソリューションズ